

「御殿場の文化の継承について」

(報 告)

平成25年3月

御殿場市社会教育委員会

— 目 次 —

はじめに	・・・・・・・・・・・・・・・・	P 1
I 現状と課題	・・・・・・・・・・・・・・・・	P 2・3
II 課題の解決策など	・・・・・・・・・・・・・・・・	P 4・5
III 委員からの提案	・・・・・・・・・・・・・・・・	P 6
おわりに	・・・・・・・・・・・・・・・・	P 7
<参考>市内の主な伝統行事	・・・・・・・・・・・・・・・・	P 8・9

はじめに

御殿場市社会教育委員会は、平成23・24年度の2年間にわたり、年4回の委員会を中心に、研究テーマ「御殿場の文化の継承」について、調査・研究してまいりました。

今回の研究は、前回（平成22年度）の社会教育委員会提言書「次世代に伝えたい郷土資料館」の内容とも関連性があり、これまで受け継がれてきた当市の地域文化が、より多くの世代の人たちとともに、将来にわたって受け継がれていくことにより、地域の絆を強くし活性化に繋がるものと着目し、取り組みました。

そこで、「文化」という広範な意味を持つ言葉が示すものをあらゆる角度から検討した中で、今回の研究テーマにある「文化」については、「地域に残る伝統芸能や行事」に限定して研究することとしました。

その後、市内各地域に古くから伝わり、保存会等を中心に守り継がれているものを調べてみると、これまで知らなかった伝統芸能や行事が、以前と比べると衰退傾向がみられるものの、思いのほか残っており、いかに地域限定で伝わってきたかをうかがい知ることができました。こうした伝統芸能を中心とする地域の伝統行事に注目して、これらの現状や抱えている課題を拾い出し、それに対する解決策を考え、提案することといたしました。

本委員会の報告が、御殿場市の文化の継承に寄与するとともに、地域の伝統行事や活動に躍動感と潤いを与える一助となれば幸いです。

平成25年 3月15日

御殿場市教育委員会 教育長 勝又 将雄 様

御殿場市社会教育委員会

委員長	妹 尾 輝 満	副委員長	黒 柳 信 子
委員	芹 澤 文 夫	委員	菊 池 基
委員	藤 本 豊	委員	米 光 博
委員	勝間田 雄 二	委員	勝間田 志ん子
委員	村 山 美 雪	委員	林 久美子
委員	木 内 幸 代	委員	鈴 木 章 司
委員	芹 澤 義 廣	委員	岩 田 妙 子
委員	林 永 野	委員	勝 又 立 雄

I 現状と課題

ここでは、地域によって多少の違いはあるものの、地域の伝統行事に関して、各地域が抱えている現状や課題について、2回のグループ討議を通じて各委員から出された意見・内容を5つの大きな項目に整理し紹介しています。

◎情報の不足

- ・ 同じ小学校や中学校に通学していても、住んでいる行政区が異なると地域の伝統芸能や行事を知らないことが多い。
- ・ 高校生になっても、地域の行事に参加したいと思っている生徒は多い。
- ・ 地域での伝統行事の意味を深く知らない人が多い。
- ・ さいと焼き（どんどん焼き）の存在や内容を知らない居住して間もない人たちが多い。

◎地域への帰属意識の低下

- ・ 昔は、お祭りやお神輿は地域全体でやったり担いだりした。ところが今は、参加する人数が減ってきている。
- ・ さいと焼きも、参加する子どもが年々少なくなってきた。お飾りも集めなくなった。
- ・ 地域と付き合いなくても支障がない社会に変化したから、地域コミュニティが衰退してきた。
- ・ 現在は人々の価値観が多様化している。このため地域と疎遠になりがち。
- ・ 会合などで「行事を押し付けないでもらいたい」との意見がでる。
- ・ 強制されて義務感で参加する人もいる。
- ・ 青年団が衰退し、婦人会も衰退気味である。



◎後継者不足

- ・ 文化継承の行事などは、指導者が年々高齢化しており問題。
- ・ 次の世代へのバトンタッチが難しい。若い人につなぐのが課題。祭りの笛も同じ。
- ・ 若い人（世代）が、意外に地元に住んでいない。

◎閉鎖的な地域意識

- ・ 神社の関係者などは見世物でないと言われることもあるが、後継者がいない現状では、そう言っていられない。門外不出ではやっていけない。
- ・ 伝統芸能は保存会だけで守っている感がある。
- ・ 居住して間もない世帯と昔から居住している世帯との垣根がある。
- ・ 地域では年長者の意見が尊重されるあまり、若い人の意見があまり反映されにくい。
- ・ 近所付き合いは気を遣う。

◎子どもの参加と親の動向

- ・ 子ども会が関わって子どもたちが参加していると、居住年数に関係なく親も出てくる。
- ・ 高校生の親の間でも子どもの行事等に対する関心が高まっている。
- ・ 子どもたちは一度参加すると、また参加したいということで、その友達を連れて来る。
- ・ 中学校は、地域で活動するボランティアを奨励している。



II 課題の解決策等のポイント

ここでは、P 2 から P 3 で内容が紹介されました各地域が抱える課題に対して、それらを解消・解決していくための委員が考えるアイデアや具体的な活動・行動について、6つの大きな項目に整理し紹介しています。

◎広報活動の必要性

- ・ 地域では知っているが、よその地域で知らない伝統行事をイベントとして披露したり、他地区に紹介したりすれば興味がわく。
- ・ 地区の祭りを区民に知らせることが大事である。
- ・ 一度では、知らしめられない。周知には時間がかかる。
- ・ 伝統芸能を一堂に集めるイベントを催してはどうか。
- ・ 樹空の森などステージを使って伝統芸能を披露することが良い。
- ・ ごてんばDONDONなどで、もっと紹介をすると良い。

◎地域への帰属意識の高揚

- ・ 地域の行事に出て行けば顔見知りが増え、コミュニケーションがとりやすくなる。
- ・ 地域での行事は、地域内での絆を深めるのに有効なので、いかに参加者を増やすかが大事である。
- ・ 自分の地域にあった行事が衰退した理由、継承している行事の実態などを調査し、継承につながる糸口をつかむ。
- ・ 気持ちを育てる、やる気を出すためにも、伝統芸能を集めて披露する場をつくる。
- ・ 地域コミュニティの強いところは、つながりも強くなる。
- ・ いかにして働く世代が地域に関わるか。また、地域の文化とつながりを持つか。
- ・ 文化は費用対効果や効率という観点で割り切って、切り捨てて良いものではない。
- ・ 絶滅危惧文化などと銘打って保存すればよい。

◎後継者の育成

- ・ 世代交代が必要な時期に来ている。
- ・ 「次世代の子どもたちに太鼓の叩き方を教えている」といったような小さな活動をPRしていきたい。

◎地域意識の改革

- ・ 他からの転入者を地域が早い時期に受け入れることが重要である。
- ・ 文化を伝えていくようなリーダーが必要である。
- ・ 小さいときから、子どもたちを地域の行事や伝統行事に親しませることが必要である。
- ・ 保存会を支えている地域コミュニティがしっかりと維持されていることが重要である。
- ・ 地域の文化を勉強する機会を設けることが重要である。

◎子どもの参加がキーポイント

- ・ 子どもに興味を持たせるために、子どもへの働きかけが必要である。
- ・ 地域や学校を中心に、地域学習をもっと行うことが良い。
- ・ まず、自分の地域を知りたい。子どもをそういうところへ連れて行きたい。
- ・ 子どもを地域の行事に参加させ、行事を続けていく気持ちを育てる。
- ・ 1年でもいいので、子どもに太鼓を叩いた経験を持たせるのも重要。
- ・ 子どもが関わると親も出て来るので、子どもを通しての交流を活発化させたい。
- ・ 子ども会組織がしっかりしているので、子ども会の行事には、区や組の付き合いが希薄な親たちも出てくる。

◎行政の関与が必要

- ・ 何か全市的なイベントがあれば盛り上がっていく。
- ・ 文化の継承について、市は主体的に動く必要がある。

Ⅲ 委員からの提案

ここでは、P 2 から P 5 にかけて紹介しました「現状や課題」、「解決策等のポイント」を踏まえ、委員が考える地域の絆が深まり、また、活性化すると思われる施策を中心とした内容を大きく 4 項目に整理し提案いたします。

◎伝統文化の広報活動施策

- ・ 伝統行事を市民に知ってもらうことが大切なので、民俗文化（民俗芸能）の祭典のようなイベントをやるべき。
- ・ 地域の伝統行事を紹介する資料の作成や、区の広報誌に紹介していくように推進していく。

◎地域への帰属意識を高揚させるための施策

- ・ 御殿場市への誇り、地域の個性や独自性を市民が持つことが大切である。そのため、家庭や地域で郷土を学ぶためにも、年長者が、伝統行事についてどのようないわれ（由来）で始まったものなのか、子どもたちに話す機会を設ける等の世代交流を積極的に進めることが必要である。
- ・ 伝統行事や地域の行事に、積極的に居住して間もない世帯の人を役員に登用するなど、他地域から転入してきた人も、その地域で早くから受け入れることが必要である。また、居住して間もない世帯の人も、地域の伝統行事を理解し、積極的に協力する気持ちを持つことが重要である。

◎子どもを参加させるための活動

- ・ 子どもの参加を促せば、親も付いてくるので、なるべく多くの子どもに伝統行事に参加するように働き掛けることが重要である。そして、太鼓や子ども神輿等、子どもの役割を明確にして、体験を通じて興味を持たせることが必要である。

◎行政の協力

- ・ 市全体の伝統行事を紹介する場の提供、紹介パンフレットの作成等、市民に対する伝統行事の大切さを働き掛けることが重要である。

おわりに

今回、社会教育委員会は、「御殿場の文化の継承」という研究テーマで報告書をまとめたことを通じて、市内各地域における「居住年数の違いによる地域社会への帰属（意識）の問題」「希薄な地域社会」「地域を担う若者の減少」「伝統行事の担い手の高齢化・固定化」など、数多くの問題も目の当たりにしました。

今後は、この報告書のP4～5に紹介をしておりますこうした問題に対する「解決策等のポイント」や、P6で提案させていただいた事項が参考となり、地域の諸課題が徐々に解決され、平成23年（2011年）の東日本大震災以降見直され強く叫ばれている「絆」が強まることで、世代間交流が進み、より元気な地域になることを願っております。



御殿場市内の主な伝統行事

月日 (時期)	名 称	開催場所	行 事 の 概 要
1月	新橋浅間神社の稚児舞	新橋浅間神社	小学生の女子が、緋の衣と袴をつけ頭に冠を戴いて舞う。
	北畑の御祈禱神楽	北畑浅間神社 氏子各家	神社拝殿にて、矢車の舞・剣の舞を奉納。氏子各家を廻って悪魔払いを行う。
	さいと焼き(どんどん焼き)	市内各地域	1月14日(または直近の休日)に、地域の空き地などで竹を燃やし団子を焼く。
	東山の法神楽	東山巖島神社 氏子各家	神社拝殿にて、幣・剣の舞を奉納。氏子各家を廻り幣の舞を行う。
	板妻のハチハライ神楽	板妻浅間神社	神社拝殿にて、幣・剣・ゴザルの舞を奉納。
2月	古沢一幣司浅間神社の筒粥	古沢一幣司浅間神社	県東部に現存する唯一の神事。水1斗と粟6合が入った鍋に竹筒を入れて煮詰め、中に入った粟の量で農作物の豊凶を占う。
	北畑の辻切り神楽	北畑浅間神社 地区境	神社拝殿にて信・宗・行・剣・宮舞を奉納。地区境7ヵ所で辻切り神楽を行う。
3月	杉名沢の浦安の舞	杉名沢神明社	小学生高学年の女子により行われる。曲目は扇の舞と鈴の舞がある。
	新橋浅間神社の稚児舞	新橋浅間神社	小学生の女子が、緋の衣と袴をつけ頭に冠を戴いて舞う。
4月	御殿場の吾妻祭	吾妻神社	御殿場の奇祭と呼ばれる。3年に一度、大祭が行われ、祭礼の形態は格式がある。
	板妻の厄払い神楽	秋葉神社・板妻公民館	数え年で、男性42歳、女性19歳・33歳の区民を対象に、厄払いを行う。
	古沢の春祈禱	水源地(上小林地先) 古沢一幣司浅間神社	農業、諸産業、飲料に大事な水に感謝し、今年の実りを祈願。仕農安全祈願祭も行う。
6月	古沢一幣司浅間神社の輪こぐり	古沢一幣司浅間神社	茅で蛇を模した輪を作って潜る大祓い行事。田植えの折目と豊作祈願であるといわれる。



▲新橋浅間神社の稚児舞



月日 (時期)	名 称	開催場所	行 事 の 概 要
7月	新橋浅間神社の稚児舞	新橋浅間神社	富士山開山式に、登山者の安全祈願として行われる。
	東山の法神楽	東山巖島神社 地区境	神社拝殿にて、舞を奉納後、氏子各家を廻り幣の舞を行い、悪魔払いをする。
	古沢の悪魔払い	古沢一幣司浅間神社 氏子各家・地区境	神社拝殿にて、幣の舞を奉納後、氏子各家を廻る。地区境では剣の舞で辻切。
	川柳の地藏尊六斎念仏	地藏堂(川柳コミセン)	お盆行事。大数珠を輪にして置き、周りで念仏を唱えながら数珠を繰り回す百万遍念仏。
	北久原の湯立神楽	北久原浅間神社	神社境内に大釜を据え湯立を行う。神社の拝殿・境内にて幣の舞と剣の舞を奉納する。
	北久原の夏祈祷神楽	北久原浅間神社 氏子各家・地区境	氏子各家を廻り剣の舞にて悪魔払いをする。地区境に注連縄を張り辻切りを行う。
	大坂の湯立神楽	大坂浅間神社	神社境内に大釜を据え湯立を行う。7種類の舞を奉納する。
8月	深沢の牛渕の雨乞い	鮎沢川の牛渕(深沢)	昔、牛渕に大牛が飛び込んで7日7晩大雨が降り続いたという伝説から、藁で作った牛を投げ込んで雨乞いをする。
10月	新橋浅間神社の稚児舞	新橋浅間神社	お日待ちの神事舞として奉納されるもの。四方拝(四人舞)鏡の舞(5人舞)がある。
	東山の湯立神楽	東山巖島神社	疫病退散を祈願して、神社境内に大釜を据え湯立を奉納。舞は四方固め・剣の舞。
	塚原の人形三番	塚原山神社・区長宅 高根支所	千歳・翁・三番の人形を3人の青年が操り、五穀豊穡を願って三番叟を踏む。
	吉田神社祭典	9区巡回(当番区)	沼田→中清水→二子→竈→大坂→萩蕪→中山→駒門→塚原の順で9区を一年ごとに巡回し、迎える年は盛大に祭典を行う。
	鮎沢の祈祷三番	鮎沢神社	神社拝殿にて「千歳」「翁」「三番」による舞を奉納。
	沼田の湯立神楽	沼田子之神社	境内の中央に大釜を据え、水垢離を行ってから5種類の舞を奉納。
11月	高尾山穂見神社祭典	穂見神社	甲州高尾神社から勧請された「種銭」を借り、それを元手に商売すると繁昌するといわれる商売繁昌祈願の祭。
	杉名沢の浦安の舞	杉名沢神明社	五穀感謝祭の神事舞として行う。小学生の女子により行われ、扇の舞・鈴の舞がある。